

年間第 20 主日 マタイ 15 : 21~28 カナンの女

聖書の中には、神様から信仰を試され、見事に応えた人たちがいます。神様から「息子を屠りなさい」と試されたアブラハム。婚約者がいるのに「あなたは聖霊によって身ごもりました」と告げられたマリア様。二人は、信仰を試され見事に応えます。私たちの信仰の模範です。

カナンの女は、別の意味の信仰の強さを教えてくれます。アブラハム、マリア様に比べて、彼女は分が悪い状況です。自分が選ばれた民の一員ではないことがわかっています。イエス様にお願いする資格がないことがわかっています。それでも、娘のために、自分をかなぐり捨ててイエス様の前に飛び出します。信仰の賭けに出ます。何度も訴える、彼女の諦めない信仰を詳しく見ます。

まず「私をあわれんでください」と訴えています。悪霊で苦しんでいるのは娘ですが「私も一緒に苦しんでいます」と訴えます。弟子たちはイエス様に「女性の話を聞いてやってください」とも言いたげです。でもイエス様は、相手にしません。そして『私はイスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていない』とお答えになります。つまり「異邦人には何をするつもりはない」と拒絶します。それでも女性は、ひれ伏して「主よ、どうかお助けください。」と食い下がります。イエス様は、「子犬（つまり異邦人）には何もやれない」とまた断ります。民族差別を含む侮辱的な言葉に、反発してもおかしくありません。けれども、女性はイエス様に食ってかかたりしません。ユーモアさえ発揮して「主よ、ごもってもです。しかし、子犬（異邦人）も主人の食卓から落ちるパンのクズはいただくのです。」と、従順な態度をとります。

彼女の対応に、逆にイエスの方が一本取られてしまいます。「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように。」何度も食い下がって、娘を癒してもらいます。アブラハムとマリア様は、ある面、選ばれて信仰を試されました。でも、カナンの女性は、選ばれるどころか、厄介者扱いされて無視された後、願いが叶います。とても珍しい箇所です。

では、イエス様はその後、どうされたでしょう？（聖書学者たちの見解です）イエス様は、カナンの女性に会うまでは、自分の民、つまりユダヤ人の救いだけ考えていました。けれども、この女性の必死の願いによってご自身の心が変化します。マタイ福音書では、パンを増やす奇跡が2回登場します。1つ目は、5千人に食べ物を与えた箇所（14章）。こちらはユダヤ人たち対象です。2回目は、カナンの女性に出会った後、4千人に食べ物を与えた箇所です（15章）。こちらは、異邦人たち対象です。イエス様が、異邦人にも救いを宣べたい、と心変わりしたから2回目の奇跡を起こした、とも理解できます。カナンの女性の信仰は、イエス様の心を変えました。イエス様でも、考え方が変わることを今日の箇所は教えてくれます。

一風変わった、クセのある人が、思いもかけず、真理をついていて神の国を築いている、ということが、私たちの周りもあるでしょう。私たちにも、イエス様のような心の柔軟さが大切です。

そして、カナンの女性のように、拒まれても食い下がる信仰を学びましょう。2つのことを心に刻んでミサを続けましょう。